

下大和田谷津田だより

2002年12月号

第18回谷津田プレート・プロジェクト 晩秋の谷津田を楽しもう！ 11月24日 曇り

今年のYPPで雨の天気予報がはずれたのは何回目でしょうか？今回もその幸運に恵まれました。参加者の半数は子どもたちで、とてもにぎやかなイベントになりました。

集合場所から田んぼへ向かう途中でアオダイショウが出現して、その体に触った子どもたちは最初から興奮気味。まず、田んぼからイベント広場まで晩秋の谷津を味わう「谷津田オリエンテーリング」をしました。チェックポイントは全部で28。木や草、生きものを観察やカモフラージュなどのゲームがあるコースです。真剣にコナラの葉っぱをスケッチしたり、目を閉じて鳥の声に耳傾けたりしている子供たちの姿が印象的でした。

イベント広場では、リースやつる籠などのネチャー・クラフト作りを行いました。谷津の林や原っぱから集めてきたつる、ドングリなどの木の実をそれぞれが思い思いに組み合わせた作品ができ上がり、素敵なお土産になりました。また、木の棒を回転させる火起こし器を使って焚き火の火起こしに挑戦。子どもたちが息を切って作った火種から炎が上がったときには歓声がわき起こりました。その火で焼いたホクホクの焼き芋をほおばるみんなの顔はほほえみで一杯でした。

次回は12月22日に古代米の餅つきをします。今年最後のYPP、ぜひ、おでかけ下さい。

(参加者：大人12人・小学生7人・乳幼児4人、報告：高山邦明)

第34回 定例自然観察会報告

11月3日 晴れ

穏やかな秋の日差しの中での観察会でした。咲いている草ぐさはめっきり少なくなりましたが、昆虫達は暖かかったので活発に活動していました。サシバはもう渡ってしまったでしょうからオオタカでしょうか、林の中に入った姿を見ました。冬眠に備えるためかニホンアカガエルや我々の田んぼにいたアズマヒキガエルは丸まると太っていました。

<植物> アメリカイヌホオズキ、イヌガラシ、イヌタデ、イノコヅチ、ウシハコベ、オオジシバリ、オニノゲシ、カタバミ、カントウヨメナ、キツネノマゴ、ジュズダマ、シロツメクサ、セイトカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、タイアザミ(トチアザミ)、タウコギ、タカサブロウ、タネツケバナ、チヂミザサ、トウバナ、ノゲシ、ノコンギク、ノミノフスマ、ハキダメギク、ヒメジョオン、ミゾソバ、ヤナギタデ、(初)アイノコセンダングサ、カナオイ、コメナモミ、シロヨメナ、ツクバトリカブト、ハハコグサ、マメゲンバイナズナ、

(「初」以下の植物は前回10月6日の観察会では開花が記録されなかったものです)

<野鳥> ウグイス、カシラダカ、スズメ、セグロセキレイ、ホオジロ、モズ

<昆虫・蜘蛛・他> アキアカネ、ウスイロササキリ、エンマコオロギ、オオアオイトトンボ、オオカマキリ、オンブバッタ、キタテハ、キチョウ、クビキリギリシ、ゲンゴロウ sp.、コカマキリ、コバネイナゴ、シマアメンボ、ショウリョウバッタ、シロオビメイガ、スジグロシロチョウ、セスジツユムシ、チャバネセセリ、チョウセンカマキリ、ツマグロヨコバイ、ツユムシ、ドヨウオニグモ、ナガコガネグモ、ノシメトンボ、ハネナガヒシバッタ、ヒシバッタ、ベニシジミ、マユタテアカネ、マルカメムシ、ヤマトシジミ、クワゴマダラヒトリ、ハグロハバチ

<両生類・爬虫類> ニホンアカガエル、アズマヒキガエル

(参加者6名 報告：網代春男)

下大和田季節のたより

11月10日 冷え込んだ早朝の田んぼは一面まっ白。ツグミやシロハラorアカハラの声が谷津に響く。メダカは水路よりも湧水のある田んぼに集まっていた。きっと暖かいのだろう。

11月16日 遅れていた古代米の稲刈り、脱穀を終わらせる。弱々しく飛ぶアキアカネ、ナツアカネ。狩猟が解禁となり、ハンターの姿。

定例観察会と谷津田プレート・プロジェクト(YPP)の活動を中心として、下大和田のようすを皆さんにお伝えします。皆さんのご投稿、ご意見をお待ちしています。 高山邦明